

研修棟全景

森林技術総合研修所 林業機械化センター

国土の保全や水源のかん養、地球温暖化防止、林産物の供給など、森林の有する多面的機能を発揮していくためには、森林・林業に携わる方々が森林整備に必要な技術を持つとともに、安全・快適な作業を行えることが求められます。

林野庁森林技術総合研修所林業機械化センターは、群馬県北東部の国有林をフィールドに、高性能林業機械などを使った効率的な森林整備を安全に進めるための技術研修を実施することで、健全な森林を良好な状態で次代に継続できるよう人材育成に努めています。



研修棟でのチェーンソー整備実習



作業道作設実習

林業機械化センターの歴史は、林業経営の合理化のため、昭和32年、沼田営林署（現・利根沼田森林管理署）にモデル的・先導的な機械作業の実験を行う「機械化室」が設置されたことに始まります。翌年の昭和33年には、研修生宿泊所旧「愛機荘」が完成し、昭和34年より研修を開始。その後いくつかの変遷を経て、平成7年、森林技術総合研修所の支所として、現在の林業機械化センターがスタートしました。現在は、平成8年築の事務所棟、同9年築の愛機荘、同10年築の研修棟、同11年築の展示棟の四施設で運営しています。

林業機械化センターでは、林業の機械化を推進するため、周囲の国有林をフィールドとした実習等を通して、各地域の地形や森林の状況、機械の導入状況などに応じた作業方法を企画・立案できる専門性の高い技術者等の育成を行っています。

研修内容は、路網の整備手法、林業機械の操作、伐倒・集連材等の作業の連携方法、作業による残存木や林地の被害低減方策など、林地保全に留意した森林整備技術や低コストで効率的な木材生産を行うための一連の技能を身につけるためのものとなっています。研修には、高尾の森林技術総合研修所での座学と林業機械化センターでの実習を組み合わせたものもあります。

平成23年度には、14コースの研修に都道府県や民間事業者の方々など197名が参加しました。

農林水産大臣及び大臣政務官の視察



林業機械(スイングヤーダ)による
木材搬出実習の状況を視察する
郡司農林水産大臣と森本農林水産大臣政務官(当時)

9月13日、郡司農林水産大臣と森本農林水産大臣政務官(当時)が、林業機械化センターを視察しました。

当日は、同センターのスギ・カラマツなどの大断面集成材を用いた展示棟や研修棟等で、実習室の機能や林業機械等について説明を受けたのち、研修実習地で、スイングヤーダによる材の搬出作業実習、職員によるバックホウを使った森林作業道作設の状況を視察するとともに、機械操作を体験しました。

郡司農林水産大臣からは「安全を第一に、路網整備や機械化を担う人作りが、きちんとなされている。全国からいろいろな方が来ており、大変利用価値の高い重要な施設だと感じた。」とのコメントがありました。

モデル的木造建築の施設



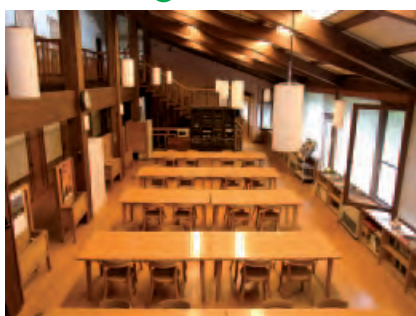
④ 展示棟内



④ 展示棟入り口



④ 展示棟全景



③ 愛機荘(食堂)



③ 愛機荘全景



① 事務所棟入口

林業機械化センターの各施設は、森林・林業技術研修の場にふさわしい構造的にも居住性の面においても優れたモデル的な木造建築物で、スギ・カラマツなどの大断面集成材を軸組材として使用しています。

① 事務所棟

建築面積：342.99㎡ 延床面積：485.72㎡ カラマツ大断面集成材構造

② 研修棟

建築面積：478.55㎡ 延床面積：651.62㎡ スギ大断面集成材構造

③ 宿泊施設(愛機荘)

建築面積：533.82㎡ 延床面積：870.03㎡ スギ大断面集成材構造

④ 展示棟(親機館)

建築面積：679.94㎡ 延床面積：684.62㎡ カラマツ大断面集成材構造

※林業に関する機械の展示や北海道・旧 置戸営林署(現 網走中部森林管理署)で木材搬出用に活躍した森林鉄道のポールドウィン蒸気機関車も展示されています。

所在地：群馬県沼田市利根町根利1445 親機館開館日：月～金の平日、午前9時～午後5時。土日祝休館。 電話 0278-54-8332